野菜



春インゲン栽培



野菜

平田 優輝 上島営農指導センター 080-1729-1639

		12	1	2	3	4	5	6
作	露地			0	$\overline{}$		_	
型	ハウス		\circ	\circ				

*備考・・・○(播種)、■(収穫期間)

品 種…ベストクロップキセラ

本圃の準備…土壌が肥沃で排水・保水性が良く耕土が深い圃場を選定する。

施 肥…肥料は有機質肥料か緩効性肥料を用いる。また、 追肥については開花時期から着果時期が最も肥 料吸収が大きいため開花前5日頃より行う。

施肥量(kg/10a)

	窒素	リン酸	加里
基肥	13	20	13
追 肥	10	10	10
合 計	23	30	23

畦 立 て…30cm以上の高畦を作り、露地の場合は地温を上 げるために黒マルチを使用する。 マルチ被服を行 う場合は土壌水分が適湿状態で行う。

播 種…畦幅 1.5 ~ 2 m、条間 40 cm、株間 35 cm とし、 1穴当たり2~3粒播き軽く覆土を行う。 発芽までは極力かん水を控え、不足気味であれば敷きわらを植え穴にかぶせやや土を湿らせる程度にかん水を行う。

*立ち枯れ病予防にタチガレン液剤 1000 倍を潅注する。

間 引 き…発芽後本葉2枚が展開した頃に1本に間引きする。間引き後は土寄せを行い株の安定を図る。

准 水…生育初期は乾燥気味になるためこまめに行い、生育が妨げられないようにする。開花時期頃より土壌水分が不足場合のみチューブで天候をみながら4~5日おきに潅水する。必ず晴天日の午前中に行う。

温 度 管 理 …昼間温度適温 23 ~ 26℃ 夜間温度適温 15 ~ 17℃ 地温の適温 22 ~ 23℃

誘引・摘葉…誘引は必ず行い、光線の確保と養分の転流がスムーズに行われるようにする。

混み合う葉や病葉、老化葉は早めに摘葉を行い株の内部に日光を当てる。1度に多くの摘葉を 行うと草勢が低下するので注意する。

果樹



12月の柑橘園管理



果樹

山下 俊二 下島営農指導センター 080-1729-1632

中晩柑については収穫まで1か月を切る品種も出てきました。

クリスマス頃には寒波等も予想されますので、今後の天候 に注意しましょう。

1. 病害虫防除

ベフラン液剤 25 + ベンレート水和剤の混用剤は収穫 1 か月前に散布を行い、効果的な防除に努めましょう。

対象病害虫	農薬名	 希釈倍数	収穫前日数		備考		
MANAT		*	П	אַצְּעווֹ יוּיִרנוֹינוֹינוֹינוֹינוֹינוֹינוֹינוֹינוֹינוֹי	温州	中晩柑	IIII (7
	ベフラ	ン液	剤25	2,000 倍	前	i日	混用散布
貯蔵病害	ベンレート水和剤		4,000 倍	前日		※1回目 散布	
		トッフ コアフ	プジン ブル	1,500 倍	7日前	前日	※2回目 散布
越冬害虫	/\-^	ベスト	オイル	60 倍	_	_	温州みかん 対象

※ベフラン液剤 25 とベフトップジン(F) は合わせて 2 回までとなります。

使用の際はご注意をお願いします。

※ハダニが発生している場合は、各担当地区の指導員に相談 下さい。

2. へた落ち防止

収穫から長期間貯蔵を行う品種では、へた落ち防止の為散布を行いましょう。

また、すでに河内晩柑等でマデック EW を使用された園では使用する事ができませんので、ご注意下さい。

対象品種	農薬名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
かんきつ	マデックEW	2,000倍	20~10日前 まで	10

3. 樹勢回復対策

収穫が終わった品種ではまず十分にかん水を行い、その後 チッ素主体の葉面散布で樹勢回復を行いましょう。

	資材名	希釈倍数 又は袋数	備考
葉面散布 (N主体)	尿素又は神協スピリッツ 又は アミノジューシーN14	500倍	3回以上集中散布 しましょう
施肥	ハイヤ1号	4袋/10a	温州みかん対象







トルコギキョウ温度管理について



吉澤 清 下島営農指導センタ-080-1774-5386

発雷から開花が始まるまでは、生育速度を落としてじっくり作ることでボリューム確保のための換気とします。開花が始まったら、仕上げ換気とし、花シミ(花弁に発生する灰色かび病)がなく、水揚げ後にボリュームが向上する水揚げの良い切花を生産することに留意した換気を行います。

[~1月中旬出荷]

側枝確保までは、 10° C設定とし、側枝確保ができた若しくは花芽の成長を促すステージとなった場合(最低気温 5° C)は、 15° C設定とします。

開花を急がせる場合は 15° C (最低気温が低く、4 段サーモがある場合は、重油消費量を抑えるために前夜半 (0 時まで)を 15° C、高夜半 (0 時から)を 12° C、8 時~9 時を 15° C)設定とします。開花を抑えたい場合は、換気を日の出 2 時間以内に隙間換気してその後の天気に応じて開閉を行い、日没後に閉めて 10° C設定とします。

[冬出し作型(1月下旬~3月中旬出荷)]

日照時間が 4 時間 / 日、最低気温が 5℃を下回る日が多くなる日の期間は、重油消費量とブラスチングの発生を抑えることを目的に 10℃設定を基本とします。ただし、開花期(蕾が発色してきたころから収穫まで)は、15℃ (4 段サーモがある場合は、重油消費量を抑えるために前夜半 (0 時まで)を 15℃、高夜半 (0 時から)を 12℃、8 時~ 9 時を 15℃)設定とします。







子牛の寒冷対策について



新産 園田 遼海 下島営農指導センター 080-1795-9380

現在も子牛の相場は高値傾向で推移しています。病気やストレスによって発育に悪影響が出れば、その損失も大きなものになりますので、できる限りそれらをなくしていくことが重要となります。一般的に牛は寒さに強く暑さに弱いと言われますが、子牛の時は寒さへの対応能力も高くありません。秋が終わり、寒さも一段と厳しさを増してきたこの時期には、確実な寒冷対策が必要です。

・冬期の寒冷対策

牛舎内の温度が下がる今の時期は、子牛が体調を崩して下 痢をしたり、被毛が伸びてぼさぼさになっていることが多く 見られます。子牛の適温域は13℃~25℃、低温側では5℃ 以下になると発育に悪影響を及ぼすと言われています。特に、 生後3ヵ月齢未満の子牛では皮下脂肪が薄いうえ、反芻胃で の熱産生も期待できません。寒冷ストレスなどがなるべく少 なくなるよう飼養環境や管理に配慮が必要です。子牛に寒冷 ストレスを与えない為、次の3つの点に気を付けましょう。



(1) 子牛に風を当てない

子牛に寒風が当たる時、体温が奪われますので防寒対策を して下さい。

(2) 牛体や床を濡らさない

子牛の体が何らかの理由で濡れると、それが乾く際に体温が奪われます。こまめに敷料の交換をしましょう。また、子 牛用の木枠ベッドを作って敷料を入れるのも効果的です。

(3) 冷えた壁に直接触れさせない

子牛の体が外壁に触れていなくても、壁から伝わる冷気によって体温が奪われます。壁と子牛の間にコンパネやベニヤなどの熱伝導性が低い材料を設置し、冷気を遮断すると良好です。これら以外にも、発熱灯の設置、ネックウォーマーや防寒ベストなどの着用、哺乳量や飼料給与量の増量、ぬるま湯の給与やミルクの温度低下に注意することなども、子牛の発育を維持する為に有効な寒冷対策です。

・ 今後の対策

病気やストレスを完全になくすことは難しいです。生産者 の方の創意工夫や、畜産資材などを用いることでこれらの病 気を予防することが可能です。より良い経営を行うため、良 い子牛の生産に努めましょう。